

2013年8月23日 282号

共同センターNEWS

憲法改悪反対共同センター

文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX5842-5620)

<http://www.kyodo-center.jp> mail: move@zenroren.gr.jp

「従来の解釈改憲では容認は難しい」 集団的自衛権行使について 前内閣法制局長官発言

安倍首相は集団的自衛権の解釈改憲にむけて、内閣法制局長官を従来の憲法解釈を維持する山本庸幸氏を退任させ、新長官に積極的推進派の小松一郎前駐仏大使を充てました。その内閣法制局長官を退任し、最高裁判事に21日就任した山本氏が、「集団的自衛権の行使は、従来の解釈改憲では容認は難しい。実現するには憲法改正が適切だろうが、それは国民と国会の判断だ」と発言しました。

山本氏は、会見で「憲法9条には武力行使はいけないと書いてあるが、例外的に我が国が攻撃された時は反撃が許されると解釈し、過半世紀はその議論でずっときた」と指摘しました。また、集団的自衛権の行使には「憲法解釈の変更という非常に細い道をたどるよりは、憲法規範そのものを変えなければできない」との考えを示しました。

内閣法制局は政府の憲法解釈を担い、これまで集団的自衛権の行使は憲法上許されないと解釈してきました。その考えを踏襲し、改めて明確に示しました。

これに対して、菅義偉官房長官は21日の記者会見で、「最高裁判事は合憲性の最終判断を行う人だ。公の場で憲法改正の必要性まで言及することは極めて違和感を感じる」と批判しました。この菅氏の違和感発言に、逆に「違和感を持つ」と批判する声が広がっています。

原水禁世界大会

オリバー・ストーン氏(米映画監督)スピーチ

被爆地を訪問するため来日した米国の映画監督オリバー・ストーン氏が、原水禁世界大会に参加し、広島・長崎の各会場でスピーチを行いました。広島での発言の一部を紹介します。

歴史をよく知る人々は、安倍氏を信じない

初めて広島に来たが、皆さんも出席されたと思うが今朝の平和記念公園での式典を見て強く心動かされた。よくできた、日本人の良心を証明するような式だった。しかし、今日そこには多くの「偽善」もあった。

「平和」そして「核廃絶」の言葉が安倍首相の口から出た。でも私は安倍氏の言葉を信じていない。この場にいる、歴史をよく知る人々は、安倍氏を信じないという私の言葉に同意してくれると思う。

ドイツと違う日本の戦後 なぜ立ち上がろうとしないのか

第二次大戦で敗戦した2つの主要国家はドイツと日本だった。両者を並べて比べてみると、ドイツは国家がしてしまった事を反省し、検証し、謝罪し、そしてヨーロッパで平和のための道徳的なリーダーシップをとった。そのドイツは、60年代から70年代を通してヨーロッパで本当に大きな道徳的な力となった。平和のためのロビー活動を行ない、常に反核であり、アメリカが望むようなレベルに自国の軍事力を引き上げることを拒否し続けてきた。2003年、アメリカがイラク戦争を始めようというとき、ドイツのシュレーダー首相(当時)は、フランス、ロシアとともにアメリカのブッシュ大統領にノーを突きつけた。

みなさんに聞きたい。どうして、ともにひどい経験をしたドイツが今でも平和維持に大きな力を発揮しているのに、日本は、アメリカの衛星国家としてカモにされているのかということ。あなた方には強



い経済もあり、良質な労働力もある。なのに、なぜ立ち上がろうとしないのか。

今は大変危険な状況。本当の目的は中国

私が1968年に兵士としてベトナムを離れたとき、これで世界は変わる、新しい時代が始まると思った。これで米国のアジアに対する執着は終わると思った。しかし、アフガニスタン、イラクでの壊滅的なたたかい、それにクウェートを加えた中東での冒険のあと、米国はオバマとともにアジアに戻ってきた。北朝鮮は関係ない、北朝鮮はただのカモフラージュだ。本当の目的は中国だ。第二次大戦後にソ連を封じ込めたように、中国に対する封じ込めこそが目的なのだ。

第二次大戦後、米国はソ連を巨大なモンスターにしたてあげた。中国はいまその途上にある。つまり米国の「唯一の超大国」の立場を脅かすもうひとつの超大国にしたてあげられようとしている。今は大変危険な状況だ。

よく聞いてほしい、アメリカは、いじめっ子なのだ。日本が今直面している恐ろしい龍は中国ではなく、アメリカだ。4日前、私は韓国の済州島にいた。韓国は上海から400kmのその場所に最大の海軍基地を作っている。韓国は済州島の世界自然遺産の珊瑚礁を破壊して巨大な海軍基地を作っている。そこは、中国に対しては沖縄よりも前線に位置する。その意味では沖縄よりも危険な場所だ。その軍港には世界最大であらゆる核兵器を搭載する空母ジョージ・ワシントンが停泊できる。そこから出て行って中国のシーレーンを制圧しようというのだ。



韓国と日本が牙を磨き、フィリピンも米軍にスービック湾の基地を戻し、南のシンガポールと新しく同盟を結んだオーストラリアにも海兵隊が駐留する。それに台湾と、もと敵国のベトナムまでもが加わって、中国に対抗する。それにミャンマー、タイ、カンボジア、さらにインドもこれに加わろうとしている。これは大変危険なことだ。NATOが防衛同盟としてスタートしながら、攻撃のための同盟に変化したようなことと全く同じ事がここで起ろうとしている。

今年、戦争がアジアに戻ってきた。オバマと安倍は相思相愛だ。安倍はオバマが何を欲しがっているか知っている。なかでも尖閣諸島について、あんなものを巡って戦う気が知れないが、それなのに戦う価値があるように言われている。問題は、日本のナショナリズムの精神が、安倍やその一派の第二次大戦に関する考え方、特に中国での南京虐殺や韓国の従軍慰安婦問題などから発する馬鹿げた言説とともに復活しつつあることだ。

戦争を起こして日本と世界に痛みを与えてきたバカ者どもと戦ってほしい

ここでみなさんには、ドイツがヨーロッパでしたように、立ち上がって反対の声を上げてほしい。日本はかつて戦争に負け、広島、長崎その他でひどい目にあった。その悲しみを糧にして強くなり、繰り返し戦争を起こして日本と世界に痛みを与えてきたバカ者どもと戦ってほしいのです。

世界大会「憲法分科会」に150人参加

世界大会で分科会が持たれましたが、そのひとつとして「9条輝く日本を一原水爆禁止運動の役割」分科会が開催されました。23歳から92歳までの150人が参加。地元活水女子大学の渡辺弘氏が「日本国の平和主義について」とのテーマでミニ憲法講演。午前には高知県原水協事務局長の和田忠明氏は「高知県における憲法擁護と非核・平和運動」、午後には民青同盟の田中悠委員長が「憲法を守り生かす青年のとりくみ」とのテーマで、全教長尾ゆり副委員長は「I Love 憲法」のとりくみ等を報告しました。

参加者からは「核兵器こそ広範に国民が結集できる課題だ」「9条に目を向けるきっかけになるのが核兵器の問題」などと、核兵器廃絶運動と結んで何をすべきかについて各地から活発な報告と問題提起が出され、分科会のテーマに沿って深め合うことができました。

憲法を学び、生かし、平和な日本と世界を！